

内訌ヲ生シ民主黨ノ勢力増大セル際ナルカ故ニ十一月選舉後政界平穩ニ歸スルヲ待チ交渉ヲ開始シ度キ旨六月末同大使ヨリ請訓シ來リ政府ニ於テハ之ヲ承認セリ然ルニ同年九月米國國務長官「ノックス」來朝ノ機ヲ利用シ帝國政府ハ本件ニ關シ我立場ヲ闡明セル覺書（附屬書第三十三號）ヲ嚮ニ珍田大使ニ送リタル我改正試案ト共ニ交付シ日本ノ希望ヲ開陳スル所アリタリ翌一九一三年一月ニ及ヒ在米大使ハ國務省ニ對シ本件命令及規則ノ改正方ヲ申入レタルカ右ニ對シ國務省ハ二月三日覺書ヲ以テ我請求ノ趣旨ニ基キ日本人又ハ朝鮮人ナル辭句ヲ除却シタル現行法規ニ適應スル改正案ヲ添付シ珍田大使ノ同意ヲ求メ來リ同大使ハ之ニ同意シ置キタルカ大統領「タフト」ハ二月二十四日附ヲ以テ日本人朝鮮人等ノ文字ヲ除却シタル改正行政命令ヲ發布シ次テ移民法施行細則第十一條ヲ改正發布セリ（附屬書第三十四號）

第六章 一九一三年加州土地法制定ト珍田「ブライアン」協商問題

第一節 加州外國人土地法ノ制定

一、外國人土地法案ノ加州下院通過

曩ニ一九一一年（明治四十四年）加州州會ニ於テ外國人ノ土地所有ヲ禁止セントスル法案提出セラレタルコトアルモ通過ヲ見スシテ止ミタリ次テ一九一三年（大正二年）一月六日加州州會開會セララルヤ日本人ニ關係アル多數ノ法案提出セラレタルカ就中日本人ニ對シ最モ重大ナル關係ヲ有シタルハ日本人ノ不動産所有禁止ヲ目的トセル數種ノ土地法案ナリトス而シテ之等諸案ハ上下兩院共各委員會ノ審査ニ附セラレ同委員會ニ於テ各代表案ヲ作成セリ下院代表案ノ要點次ノ如シ

- (一) 一般外國人ノ不動産所有ヲ禁止ス但シ現ニ所有スル者及其妻子ノ手ニ在ル間ハ本法ヲ適用セス

(二) 將來不動産ヲ取得シタル一般外國人ニハ一ケ年間ヲ限リ之カ所有ヲ許シ之ニ違反スルトキハ該不動産ヲ公賣ニ附ス但シ所有者カ右一ケ年以内ニ歸化ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニアラス

(三) 外國人ニ對スル五ケ年以上ニ亙ル不動産賃貸契約ハ無効トス

(四) 歸化權ナキ外國人タル株主カ過半数ヲ占ムル會社ハ本法ニ於テ外國法人ト見做ス

同案ハ四月四日下院委員會ヨリ同院本會議ニ報告セラレタル上四月十五日下院ヲ通過セリ

二、同法案上院通過ト成立

上院ニ於ケル代表案ハ右ノ内(一)ノ但書無ク(三)ノ五ケ年ヲ三ケ年トセル外大體同様ニシテ同月十二日上院第二讀會ヲ通過シタルモ議論百出シ屢次修正ヲ加ヘラレタル末終ニ加州檢事總長「ウエー」(U. S. Webb)ノ起草セル法律案ヲ其修正トシテ採用スルコトニ決シ同案ハ上院ニ於テハ五月二日下院ニ於テハ翌三日孰レモ大多數ヲ以テ通過シ五月十九日加州知事ノ署名ヲ了シタルヲ以テ加州憲法ノ規定ニ據リ同法律ハ州會閉會(五月十二日)後ヨリ九十日ヲ經過シタル日即チ八月十日ヨリ實施セラルルコトナレリ(附屬書第三十五號)

三、土地法ノ要旨

加州外國人土地法ノ要旨左ノ通

(一) 米國法ニ據リ米國市民タルヲ得ル外國人ハ市民ト均シク不動産及之ニ關スル權利ヲ取得保有使用讓渡遺贈及相續スルコトヲ得

(二) 米國法ニ據リ米國市民タルヲ得サル外國人ハ該外國人ノ本國ト米國トノ間ニ締結セラレタル條約ノ規定ノ範圍内ニ於テノミ不動産及之ニ關スル權利ヲ取得保有使用及讓渡スルコトヲ得

會員ノ多數カ此種外國人タル團體又ハ發行株式ノ過半数カ此種外國人ノ所有ニ屬スル會社ニ關シテモ亦同シ

(三) 本法ニ違反シテ取得シタル不動産又ハ之ニ關スル權利ハ州ニ沒收セラレ

(四) 前記第二項ニ該當スル外國人又ハ外國法人ト雖モ三ケ年ヲ超エサル期間農業用ノ目的ヲ以テ土地ヲ賃借スルコトヲ得

然ルニ日本人ハ米國歸化法上同國ニ歸化スルコトヲ得サルモノト認メラルルノミナラス現行一九一一年日米通商航海條約ハ土地ノ所有ニ關シテハ規定スル所ナク住居及商業等ノ目的ノ爲土地ノ賃借家屋ノ所有及賃借ニ關シ規定アルノミニシテ農業ノ目的ノ爲ニハ土地ノ賃借ニ關シ何等ノ規

定ナシ從テ本法ハ日本人ニ對シ他ノ外國人ニ比シ劣等ナル差別待遇ヲ與ヘ繼カニ條約ニ明文ノ保證ナキ農業用地ノ短期借地權ヲ認容シタル外將來ニ於テ全然土地及之ニ關スル權利ノ取得所有及相續ヲ禁止スルモノナリ而シテ本法ヲ當初ノ下院案ニ比スルニ日本人ニ對シ不動產所有ヲ禁止スルノ主旨ニ於テ兩者其軌ヲ一ニスルモ下院案ニ於テハ一般外國人ト雖モ歸化意思ヲ有效ニ表示セサル限り日本人ト同様ノ地位ニ置カレ殊ニ賃借權ニ關シテハ日本人ト他外國人トノ間ニ何等ノ差別ヲ設ケサリシモ本法ニ於テハ米國歸化法上日本人ハ歸化不能ナリトノ前提ノ下ニ露骨ニ日本人タルノ字句ヲ用ヒスシテ一般外國人ヲ歸化ノ能否ニヨリ截然二種ニ區別シ事實上當初ノ諸案ニ比シ一層顯然ト差別待遇ヲ實行セントシタルモノニシテ日米兩國間交渉ノ中心トナリタルモノハ專ラ此點ニ在リ

第二節 土地法制定前後ニ於ケル日米交渉經緯

第一、同法制定前ニ於ケル帝國政府ノ措置

一、珍田大使ト國務長官「ノックス」トノ折衝

一九一三年一月加州州會開會ノ當初在米珍田大使ハ大統領「タフト」竝ニ國務長官「ノックス」

ニ對シ從來ノ例ニ倣ヒ排日立法ノ成立ヲ阻止スル爲充分有效ナル處置ヲ採ラレムコトヲ要望シ米國政府ニ於テ之ヲ欣諾シ現ニ二月三日國務長官ヨリ加州議會ノ有力議員ニ書面ヲ送り排日法案阻止ノ必要ヲ切言シタルモ當時共和黨行政部ハ其末葉ニ際シタル爲何等積極的措置ヲ採ルニ至ラスシテ止ミタリ

二、珍田大使ト大統領「ウイルソン」ノ會見

然ルニ同年三月「ウイルソン」ヲ首長トスル民主黨行政部成リタル後ニ於テモ加州州會ノ形勢ハ固ヨリ樂觀ヲ許ササリシヲ以テ帝國政府ニ於テハ本問題ニ對スル米國政府ノ切實ナル注意ヲ喚起スルノ必要ヲ認メ新大統領就任ノ翌日即三月五日珍田大使ヲシテ同大統領ニ謁見セシメ太平洋沿岸殊ニ加州議會ニ於テ現下幾多ノ排日法案ノ繫屬セルハ帝國政府ノ深く遺憾トスル所ニシテ萬一之等法案ニシテ成立スルカ如キコトアラハ其影響ノ重大ナル洵ニ寒心ニ堪ヘサルヲ以テ新行政部ニ於テモ從來ノ行政部ト同シク兩國ノ親交ニ顧ミ適當ノ手段ヲ盡シ之等法案ノ成立ヲ阻止スルニ努力セラレムコトヲ要望スル旨縷述セシメタルニ大統領ハ米國憲法上中央政府ハ各州ノ固有ノ權利ニ干涉スルヲ得サルモ中央政府トシテ及フ限りノ權力ヲ利用シ帝國政府ノ期待ニ副ハムカ爲ニ斡旋スルヲ辭セスト言明セリ